

「働きたい職場」をしつくる

保育士不足 上 下

保育士の確保では、働きやすい環境を整えることも重要だ。休暇制度の充実や職員間のコミュニケーションの促進など、保育士に選ばれる魅力的な職場づくりを模索する動きもある。

愛知県大府市にある企業主導型保育施設「なごころ保育園大府」の室内や廊下の壁には、季節に合わせた装飾が一切ない。保育士がクリスマスなどの装飾作り



なごころ保育園大府では、季節に合わせた壁の装飾をなくし、絵本を並べている(10月18日、愛知県大府市で)

にかける時間を省き、代わりに季節感のある絵本を壁に並べている。

運動会やクリスマス会などの企画は、園の運営会社の担当者が担い、現場の負担を軽減している。「大切なのは子どもと向き合うこと」と、保育主任の藤枝奈保子さん(55)は言う。

行事の企画は会社側で ■ 週休3日制 ■ 同僚との会食費支給

埼玉県朝霞市の認可保育所「元気キッズ第二朝霞岡園」では、保育士が勤務時間中に上司や同僚と一緒に食事や喫茶に出かける制度がある。1人1回1500円まで飲食費も支給される。

この制度は、埼玉県内で同園など13施設を運営する「シユハリ」(埼玉県志木市)が導入している。保育士の小松成美さん(26)は「仕事以外のことも気軽に話せる。リフレッシュができて、

仕事を頑張ろうという気持ちにもなれる」と話す。同社は2010年から8年連続で、新卒採用した保育士の「離職ゼロ」を達成している。しかし、以前は年に3割ほどが辞めていた。

ベテランが保育内容などを決め、若手が自由に発言しにくい雰囲気があったと

保育士の杉山碧さん(26)が以前勤めていた保育施設では、長時間労働は当たり前。装飾作りや書類作成の仕事は家に持ち帰らないうちに合わなかった。「毎日、疲れ果ててぐったり。休日も、行事の衣装づくりを追われて、自分の時間が持てなかった」と振り返る。

採用担当の佐橋奈沖美さん(50)は「保育士は、長時間労働や休みがとりにくいことも多い。きちんと休めることで、趣味などを通じて人間性が高まり、保育士としてのスキルも上がる」と話している。

「きちんと休める」

が、今は余裕を持って子どもたちのことを考えられると実感しているという。

同園は、週休3日制も取り入れている。1日8時間働く週休2日か、1日10時間働く週休3日の勤務を選べる。総労働時間は同じだが、保育士の8割は週休3日を選んでいる。副業も認められており、飲食店でアルバイトをしている人もい

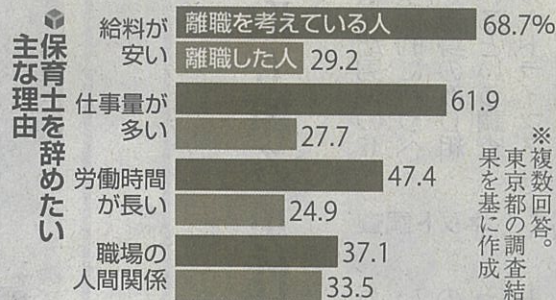
いう。同社の中村敏也代表(42)は、保育士から「このままでは働き続けられませんと打ち明けられ、09年頃から職場環境の改善に乗り出した。

採用方法を見直し、応募者には必ず「1日職場体験」をしてもらうことにした。職場の様子や、園の理念を理解してもらうため、今年入社した保育士の丸茂奈々さん(22)は「他の保育園では15分程度の面接しかなかった。普段の雰囲気ばかり、楽しく働けそうだと感じた」と話す。

保育士の評価基準も見直した。以前は「ピアノが上手」といったスキルを重視していたが、「同僚をサポートできるか」といった協調性などを評価するようになった。コミュニケーションを促し、その結果、若手が行事の企画立案を積極的に行うようになったという。

理念に共感あれば

この連載は、社会保障部の村上藍、阿部明霞が担当しました。



東京都の「保育士実態調査」(2018年度)によると、現役の保育士で離職を考えている人は約2割に上り、前回調査(13年度)から4.3%増えていた。理由(複数回答)は「給料が安い」が最多の68.7%で、「仕事量が多い」「労働時間が長い」「職場の人間関係」が続いた。

離職理由 最多は「人間関係」の33%

東京都調査

一方、保育士を辞めた人に理由(同)を尋ねると、「職場の人間関係」が最多の33.5%。保育士が職場に定着しにくい要因として、給料面以外にも、職場環境が整っていない事情があることがうかがえる。

玉川大学の大豆生田啓友教授(保育学)は、「人手不足をきっかけに、保育現場の業務の見直しが始まってきた。ICT(情報通信技術)化などのハード面とコミュニケーションの強化などのソフト面の両面から疲弊しない環境を作ることが大切だ。保育士が職場に定着し、笑顔で働けることは、子どものためにもなる」と話している。



園児のお昼寝を見守るかたわら、おしゃべりを楽しむ保育士ら(10月23日、埼玉県朝霞市の「元気キッズ第二朝霞岡園」で)

この連載は、社会保障部の村上藍、阿部明霞が担当しました。